

明治から大正時代にかけて神戸で、貧しい人たちの救済に当たった社会運動家の賀川豊彦氏が活動を開始して100年の節目にちなみ、阪神大震災のボランティア活動を振り返るシンポジウムが7月13日、神戸市で開かれる。関係者は「被災地から『賀川精神』を発信し、ボランティアの連帯を訴えたい」と話す。

シンポジウムは非政府組織（NGO）の「アジアボランティアセンター」（大阪市）が企画した「神戸から地球へ——地球規模で広がる格差社会に、阪神・淡路大震災被災地からの呼びかけ」。

明治から大正時代にかけて神戸で、貧しい人たちの救済に当たった社会運動家の賀川豊彦氏が活動を開始して100年の節目にちなみ、阪神大震災のボランティア活動を振り返るシンポジウムが7月13日、神戸市で開かれる。関係者は「被災地から『賀川精神』を発信し、ボランティアの連帯を訴えたい」と話す。

シンポジウムは非政府組織（NGO）の「アジアボランティアセンター」（大阪市）が企画した「神戸から地球へ——地球規模で広がる格差社会に、阪神・淡路大震災被災地からの呼びかけ」。

神戸で貧しい人救った社会運動家

神戸で貧しい人救った社会運動家

“賀川精神”被災地から発信



賀川豊彦氏

センターは1995年の阪神大震災でボランティア活動が盛んになったことを受けて96年に発足、アジア各国・地域のNGOとのネットワークを生かして環境保全や災害復興の支援を続ける。

代表の平田哲さん(77)は大学院生時代、晩年の賀川氏からアドバイスを得て労働運動の研究を深

賀川豊彦 1888～1960年。キリスト教の社会運動家で09年から23年まで現在の神戸市中央区の吾妻通付近で貧しい人々の支援に携わった。23年の関東大震災直後に救援のため東京都墨田区本所に駆けつけ、活動拠点を東京に移した。労働組合や生活協同組合の創設運動を展開し、社会福祉や平和運動など幅広く活動した。著述にも熱心で、小説「死線を越えて」(20年)はベストセラーになった。

「ボランティア活動の先

震災のボランティア活動振り返る 来月にシンポジウム開催

駆けとなった賀川の活動を再評価し、震災で芽生えた市民活動を引き継ぐエネルギーにしたい」と話す。

シンポジウムでは阪神大震災当時の兵庫県知事、貝原俊民氏が「阪神・淡路大震災と『賀川精神』」とのテーマで講演するほか、野田正彰・関西学院大教授が「心のケア」について講演する。

シンポジウムは神戸市中央区の兵庫県公館。参加無料。申し込みは「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会事務局」(☎078・371・3550)まで。

被災地から“賀川精神”発信



関東大震災の救援にあたる賀川豊彦氏(1923年)

センターは1995年の阪神大震災でボランティア活動が盛んになったことを受けて96年に発足、アジア各国・地域のNGOとのネットワークを生かして環境保全や災害復興の支援を続ける。

代表の平田哲さん(77)は大学院生時代、晩年の賀川氏からアドバイスを

賀川豊彦 1888～1960年。キリスト教の社会運動家で09年から23年まで現在の神戸市中央区の吾妻通付近で貧しい人々の支援に携わった。23年の関東大震災直後に救援のため東京都墨田区本所に駆けつけ、活動拠点を東京に移した。労働組合や生活協同組合の創設運動を展開し、社会福祉や平和運動など幅広く活動した。著述にも熱心で、小説「死線を越えて」(20年)はベストセラーになった。

「ボランティア活動の先

震災のボランティア活動振り返る 来月シンポジウム開催

駆けとなった賀川の活動を再評価し、震災で芽生えた市民活動を引き継ぐエネルギーにしたい」と話す。

シンポジウムでは阪神大震災当時の兵庫県知事、貝原俊民氏が「阪神・淡路大震災と『賀川精神』」とのテーマで講演するほか、野田正彰・関西学院大教授が「心のケア」について講演する。

シンポジウムは神戸市中央区の兵庫県公館。参加無料。申し込みは「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会事務局」(☎078・371・3550)まで。